

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	どんぐり		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 6日		2026年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026年 2月 20日		2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 4日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者同士のつながりを大切に、行事を行うことで繋がりを深めている。	保護者が安心して集まり、子育ての悩みや日常の工夫を共有できる場を設けている。職員も同席し、会話のきっかけづくりや声掛けを行うことで、初めて参加する保護者でも参加しやすい環境を整えている。こうした関わりにより、保護者同士が自然に話し始め、共感や情報交換を通じて支え合える関係が形成されている。	保護者主催の行事などを通して保護者と子どもが自信をもって次のステップに進めるような取り組みを行っていききたい。また、話しやすいテーマ設定や少人数での対話など交流の質を高める工夫を取り入れ、継続的に参加しやすい仕組みを整える。
2	保護者と離れて集団生活の経験ができる。	親子の世界から一歩踏み出し、友だちの存在に気づくことを大切に集団保育を行っている。保育者が子ども同士の気持ちや言葉を代弁しながら関わりをつなぐことで、少しずつ友だちとのやり取りが生まれるよう支援している。日々の集団生活の中で、人との距離感や折り合いのつけ方を学び、「友だちと一緒にできた」という達成感を積み重ねながら次のステップへ進む力を育てている。	子ども同士が関わりやすい活動を増やし、保育者が気持ちの代弁や橋渡しをより丁寧に行うことで、自然なやり取りが生まれる環境を整える。また、より多くの行事を行い、取り組みなどを含め保護者に知ってもらい成長を伝える機会を増やす。
3	併設している認定こども園や一時保育の子どもと交流を行うことで、より刺激を受けて成長に期待を持つことができる。	子どもたちが色々な子どもと関わりをもてるように、一時保育や認定こども園の子どもたちと一緒に遊ぶ機会を設けている。どんぐりでできた保育者や友だちとの繋がりの基盤を元に、さらにいつもと違う友だちから刺激を受けて、少しずつ自分の世界を広げていってほしいと想い保育を行っている。	積極的に連携をとり、関わる機会を増やす。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングなど専門的な関わり方を伝える機会が少ない。	保育を中心とした業務体制のため、子どもの生活支援や日々の対応が優先され、保護者向けの専門的支援に時間や人員を割きにくいことが、ペアレントトレーニングを提供する機会の少なさに繋がっている。	保護者懇談会などを通して、保護者へ関わり方を伝えるなど少し専門性のあるアドバイスをやっていく。
2	部屋の使い方、老朽化。	利用児が多い日は部屋が狭く感じることもある。	改修予定。それまでは部屋の使い方を工夫することが必要。
3	通信やホームページ、SNSなどを使った情報の発信	通信は月1回発行しているが、インスタグラムの更新がなかなかできていない現状がある。更新する日を決めたり、担当を決め意識する必要があると感じる。	通信の内容をインスタグラムであげたり、気軽に事業所のことをより知ってもらい機会を多く作る。